

# ADVOCATE

Japanese Society of Health Promotion : JSHP

http:// ホームページ開設を予定しております。

# 1

創刊号

日本ヘルスプロモーション学会  
2003年7月1日発行  
発行者 島内憲夫  
編集者 吉岡康

学会事務局  
〒270-1695  
千葉県印旛郡印旛村  
平賀学園台 1-1  
0476-98-1118 (tel/fax)  
norio.shimanouchi@sakura.juntendo.ac.jp

\*advocate「アドボケート」とは、ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章の中に書かれている3つのプロセスの第一番目「唱道」のことです。

## 巻頭言

### ミラージュ・オブ・ヘルス

ヘルスプロモーションの魅力、それは健康と愛の奇跡を起こす力

日本ヘルスプロモーション学会 初代会長

島内 憲夫 (順天堂大学 健康科学部健康社会学研究室)



日本ヘルスプロモーション学会は、21世紀を生きる人びとの健康を創造するための科学的かつ人間的な知識と技術を開発するとともに、健康に価値を置く人びとのハートを育て、健康で幸せな社会を構築する仕組みをつくることを目的として設立するものである。

学会設立のねらいは、我々が開発するヘルスプロモーション・プログラムへの参加を国民に働きかけ、これにより健康の推進を進める活動への個人・グループ・家族・地域そして政策決定者のエンパワメントを高め、個人のコントロールを超えた健康づくりへの各界、各層における運動を展開することにある。その理由は、ヘルスプロモーションが、保健・医療・福祉の分野にとらわれない新たなパラダイムを備えた分野であり、常に最上位の概念であるからである。

また、このため学会は、単なる研究発表の場としてだけでなく、行動する学会を目指すこととする。

ヘルスプロモーションの日本での発達史を振り返ってみれば、厚生省が平成5年から始めた「健康文化都市構想」の基本的な考え方としてそれを位置付けし、また厚生労働省が平成13年から始めた第

3次国民健康づくり運動「健康日本21」の総論の根幹をなす考え方としてそれを位置付けた。また、平成9年に保健体育審議会が文部大臣への答申書の中でヘルスプロモーションの考え方を詠った。学会では、これらの国レベルの動きを見据え、それらの活動の検証を行うとともに、新たに開発されたプログラムに基づく提言を行っていくこととする。

会員としては、ヘルスプロモーションの展開にとって必要な「住民参加・参画」と「分野間協力」を達成するため、研究者だけでなく、国、地方自治体の行政担当者、市民、学生など幅広い層を期待している。

参加する会員は、多くの具体的な役割と責任を分担し、常に成長を求められる。そして、これらの実践によりヘルスプロモーション・プログラムの提供、実践、検証といったヘルスプロモーションのアクティブかつダイナミックな展開を維持することができるものと考えるところである。

われわれの願いは、「誰もが健康である」という奇跡を国民に届けることである。

## ニュースレター「ADVOCATE」って?

日本ヘルスプロモーション学会定期刊行物である本ニュースレターの名称を「ADVOCATE」と命名しました。

WHOが1986年に提唱したヘルスプロモーションに関するオタワ憲章の中では、3つのプロセス 唱道 advocate 能力の付与 enable 調停 mediate が掲げられています。本学会でも、このプロセスに則るべく、特にニュースレターの果たすべき役割を唱道 advocate に託しました。

## ADVOCATEでは・・・

ADVOCATEは、唱道(辻説法)です。換言すれば、あらゆる舞台上自ら主体的に健康の価値や健康の諸要因などについて「語ること」、また主体的に語れない人々に健康を届けることができるように「代弁すること」です。そうすることによって、健康の価値を高め、健康の諸要因を健康にとって望ましいものへとつくり変えていくことが可能となるのです。

## 2人の副会長からの挨拶です



尾形聡（おがた歯科医院）  
私は小さなまちで歯科医をしながら町でまちづくりのボランティア活動をしています。医院は幅広い年齢層、様々な生活環境、職業の人が訪れ、待合室はさながら小さなコミュニティーになります。小さな待合室からハートフルな気持ちを発信させ、一人の医療人としてもヘルスプロモーション活動を支えたいと考えます。



山本春江（青森県立保健大学）  
開花宣言

犬と私のいつもの散歩道は「桜川」という名ですが、その名のとおり川岸には桜並木が続いています。その桜、ここ1週間でようやく開き始めました。北の桜は、つぼみが膨らんだかなあと思っても朝晩の冷たい風には閉じ、閉じては昼のあたたかさに膨らんで、これを繰り返してゆっくり、咲きます。開花宣言、もうニュースにもならない。けれど、地球は丸い、「今はもう秋-」の国もあるのです。だからやっぱり、開花宣言！ゆっくり楽しむものではありませんか。（2003.4.23.学会設立に）

### ADVOCATE 創刊記念特集 常任理事 所信表明

## 常任理事会が開催されています

日本ヘルスプロモーション学会では、2002年8月3日の設立以来、第1回総会の実現に向けて着々と議論が進められています。これまでにすでに8回に渡る会議の中で検討が行われてきましたが、今回は10名の常任理事の皆さんに、学会運営の抱負を語っていただきました。



岡利実（都市空間研究所）  
建築・都市計画を専門とするコンサルタントですが、これまでどちらかといえば“市街地整備”あるいは“都市整備”といった業務を主に行ってきました。最近では、様変わりする時代の要請からか、仕事の対象がより人びとの生活や活動を扱う“まちづくり”に近づいてきているようです。学会のためにどこまで役に立てるかわかりませんが、この参画を機会に、これまでの仕事の経験を生かしながらも、日頃携わっている業務を超えて、幅広いまちづくり活動が展開できればと思っています。



笠井喜久雄（白井市役所）  
学会の目標のひとつである「健康なまちづくり」の実現に賛同し参加しました。従来の健康施策は個人をターゲットに、健康教育や健康相談、健(検)診など自覚や健康意識を高めることに重点を置いてきましたが、これからは個人の自覚や努力だけではなく、社会全体で取り組んでいくことが重要です。そのためには、家庭、学校、職場、地域など社会生活の場における健康施策の推進が大切であると考えています。私は、このような考え方をみなさんとこの学会で調査研究・検証しながら発信していきたいと思えます。



助友裕子（順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター）  
ヘルスプロモーションの父と母から「生まれ」たアイデアを「生かす」こと、未来のヘルスプロモーション活動を「生む」ことを大切にしながら、強く・しなやかに・丁寧に当学会の運営に携わります。大好きなヘルスプロモーションを通じてできた素敵な人たちのネットワークが、健康な社会を創るものと信じ、そのプロセスに私も巻き込まれたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## ADVOCATE 創刊記念特集

## 常任理事 10 名からのメッセージ



高村美奈子（順天堂大学大学院生）  
ヘルスプロモーション学会という今までになく、学際的でまさにパンフレットの青空のように広く、夢あふれる舞台でこのような貴重な経験をさせていただき、心から感謝しています。多少戸惑いもありますが、まさに『私ができること』は何か、と常に足元を見つめ、目の前に広がる大きな光に向かって、一步一步進んでいきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



建野正毅（国立国際医療センター）  
国立国際医療センター国際医療協力局に勤務しております。ここは厚生労働省が行う国際保健医療協力を実施する機関で、現在 20 カ国近くの開発途上国に 30 人以上の職員を派遣しております。ヘルスプロモーションは開発途上国の健康課題はもとより、貧困、暴力などの社会問題の解決に対しても有効な戦略になると期待しています。学会の知恵を借りて、開発途上国においてヘルスプロモーションを推進してゆきたいと考えています。



田中誠二（順天堂大学大学院生）  
現在、私は学生という立場で健康について学んでいますが、ヘルスプロモーションとは、強い「正義感」と大きな「夢」を持った素晴らしい概念だと感じています。健康で幸せな社会を創造するために、この学会を通じて一人一人が持つ「想い」を共有し合い、また、学際的に研究が行われることが大切だと思います。学会常任理事というこの大きなチャンスに感謝し、明るい未来を描く力となれるよう頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。



徳田武（新企画出版社）  
ヘルスプロモーションは、“安全と安心”が保障された“豊かで楽しいまち”を“みんなでつくり上げる”ことだと思います。ところが、これまでの健康政策は、個別の保健サービス提供が中心で、社会づくりに必要な政策科学の側面が不足していました。

本学会は、そうした現状を打破するだけでなく、すべての人と分野が手を結ぶ必要性を訴えた夢のある学会だと思います。時代が求めた活動に関われることを誇りに感じます。出版人の端くれの立場から、「ADVOCATE」のお手伝いできれば、幸せです。



宮本照嗣（千葉ニュータウンセンター）  
20年にわたって公共建築づくり、まちづくりを行ってきました。現在は行政の計画からまちづくり活動まで、幅広く地域社会づくりに関わっています。20世紀、社会が分業化・細分化され高度化・複雑化されて高度成長が達成されましたが、地域社会が持っていた機能が損なわれ、「コミュニティの再生」の必要性が叫ばれています。ヘルスプロモーションには、そのような混沌に対して分かりやすい指針を与え、望ましい社会の仕組みをもたらす可能性があるかと期待しています。



湯浅資之（国立国際医療センター）  
北海道の片田舎で地域保健に従事したあと、フィリピンで母と子の健康を向上させる取り組みに参加してきました。そして6月からヘルスプロモーションによる健康なまちづくり活動を支援するためにブラジルへ旅立ちます。この学会を通して日本とブラジルの人たちの架け橋となって、貧困に置き去りにされた人々が自らの手で健康で幸せなまちづくりができるよう、少しでもお手伝いできればと願っています。



吉岡康（千葉県佐倉保健所）  
千葉県の保健所で食品衛生監視員をしています。健康なまちづくりと私の仕事の接点は「食は健康の源」です。安全でおいしい食品の提供は、健康なまちづくりの大前提ではありませんか。そのような食品を供給するためには、つくる人が食べる人のことを思い、しかも働き甲斐のある衛生的な職場環境が必要です。そんなことを目標に仕事に取り組んでいます。様々な分野の方々と共に、それぞれの現場で取り組んでいる課題を持ち寄りましょう。私は、広報と機関紙を担当いたします。世界の情報を皆さんに提供しつつ、皆さんからの活動報告を全国に発信したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

# 速報!

## 設立総会・第1回学術大会 期日・開催地決まる

日本ヘルスプロモーション学会の記念すべき第1回総会(設立総会を兼ねる)が、2003年11月15・16日、東京・新宿区にある国立国際医療センターにおいて開催されること、4月の常任理事会において決定されました。現在、プログラムの詳細についての議論が行われていますが、今後、詳細が決まり次第、会員の皆さまへ最新情報をお届けいたします。ニューズレター ADVOCATEをおみのがしなく!

### 設立総会・第1回学術大会 ご案内(第1報)

『ヘルスプロモーションの奇跡・健康パラダイムの過去・現在・未来-』  
期日：平成15年11月15・16日(土・日)  
会場：国立国際医療センター(東京都新宿区)

プログラム(予定)：

- 会長講演
- 特別講演
- 設立総会
- シンポジウム
- シンポジウム
- 懇親会
- その他

参加費：一般会員¥2,000 学生会員¥1,000  
非会員¥3,000(非会員学生含む)  
詳細が決まり次第、第2報をお伝えします。

### 常任理事会が開催されています

- 第1回 平成14年11月14日(木)18:30~20:00  
(順天堂大学さくらキャンパス)
  - 第2回 平成14年12月14日(土)15:00~17:15  
(順天堂大学本郷キャンパス)
  - 第3回 平成15年1月9日(木)18:30~20:00  
(順天堂大学さくらキャンパス)
  - 第4回 平成15年1月30日(木)18:30~21:00  
(順天堂大学さくらキャンパス)
  - 第5回 平成15年3月10日(月)18:30~20:30  
(順天堂大学さくらキャンパス)
  - 第6回 平成15年4月16日(水)18:30~20:30  
(順天堂大学本郷キャンパス)
  - 第7回 平成15年5月26日(月)18:30~21:00  
(順天堂大学さくらキャンパス)
  - 第8回 平成15年7月3日(木)18:30~20:30  
(順天堂大学本郷キャンパス)
  - 第9回 平成15年8月7日(木)18:30~20:30  
(予定：順天堂大学さくらキャンパス)
- 議事録ご希望の方は email にて送付いたします。

トピックス

## ヘルスプロモーション グロサリー

Vol.1

このコーナーでは、毎号、ヘルスプロモーションに関するキーワードを取り上げ、それに関する簡単な説明をしていきます。ひとつの言葉でも様々な解釈があると思いますが、皆さんはどのように受けとめられるでしょうか? よろしければ、ディスカッションのツールにしていいただければと思います。

1. ヘルスプロモーション (Health promotion) : ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康をコントロールし改善することができるようにするプロセスである。(WHO 1986)
2. セッティングズ・フォー・ヘルス (Settings for health) : 健康や well-being に影響を与える環境的、組織的、個人的要因としての日々の活動において、人々と密接に関わっている場所や社会的文脈のことをいう。(WHO 1998)

## お知らせ

会員の皆さんからの「声」をお待ちしています

ADVOCATEでは、会員の皆様の声をお待ちしています。「報告」「一言(意見)」「情報交換」「伝言版」等々・・・何でも結構です。封書または(できれば)電子メールで事務局までお送りください。

『会員の声』送付先

< 郵送の場合 >

〒270-1695

千葉県印旛郡印旛村平賀学園台1-1

順天堂大学<sup>ポ</sup>健康科学部健康社会学研究室内

日本ヘルスプロモーション学会

ADVOCATE 編集委員会 宛

< 電子メールの場合 >

hiroko\_suketomo@hotmail.com 宛

件名は「ADVOCATE 投稿」としてごください。

\* 皆さまの記事、どんどんお寄せください!

### 編集後記

おかげさまで創刊号を無事に発刊することができました。「ADVOCATE」創刊号いかがでしたでしょうか。本会のように、社会的に様々な立場の人々が参加している会では、ニューズレターの果たす役割は決して少なくありません。

さあ、皆で声を掛け合いながらアドボケート号を生活の質の大海へ漕ぎ出そうではありませんか。

会員の皆様の声を、ぜひお寄せ下さい。

(吉岡)

本印刷物の無断転載を禁じます。